

# 令和5年度 学校保健委員会

児童の心身の健康問題は、複雑化、多様化しています。児童一人一人が自分の生活をよりよく改善し、健康な生活を送るための資質・能力を高めることが大切です。そのためには、家庭や地域との連携が不可欠です。

学校保健委員会は、児童の健康づくりに関して、意見を交換したり、協議したりして、より良い実践につなげることを目指します。

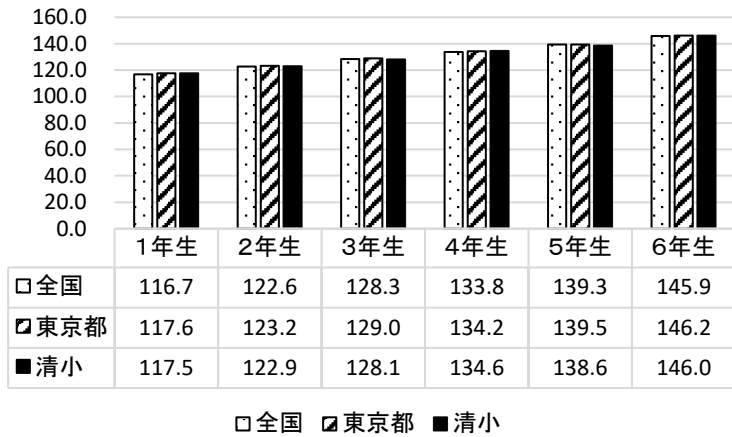
清瀬市立清瀬小学校  
令和6年1月17日

# 定期健康診断結果

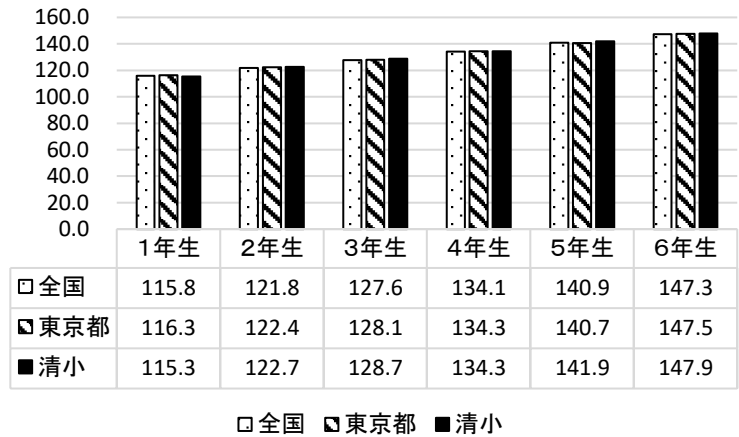
## 【身長】

※あおぞら・たいよう学級は各学年に入っています。  
 ※全国と東京都のデータは、R3年度のものです。

### 男子



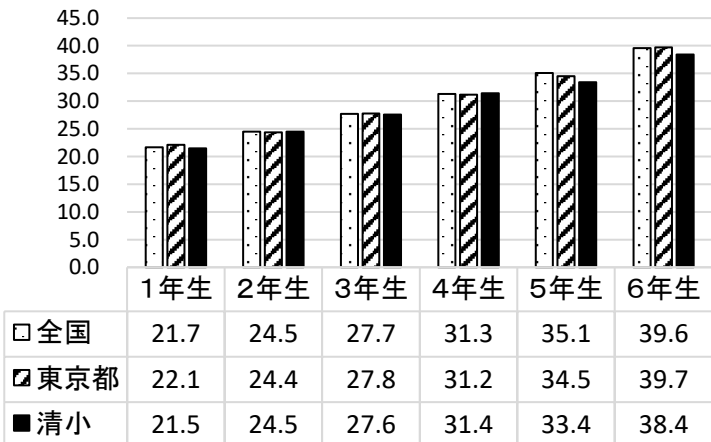
### 女子



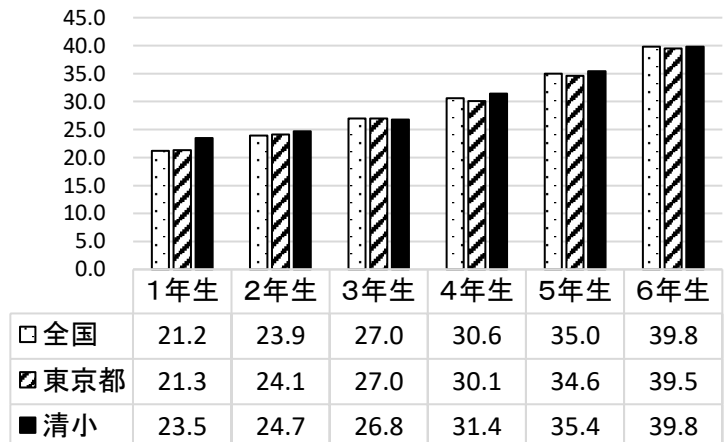
\* 男子は東京の平均を下回っている学年が多いが、全国の平均を上回っている学年が多い。3年生・5年生は、全国・東京都の平均を下回っており、特に5年生は小柄な児童が多い。  
 \* 女子は、1年生が全国・東京都平均を下回っているが、他の学年は全国・東京都の平均を上回っている。  
 \* 身長は遺伝的なものや個人差があるが、睡眠時間や食事の栄養バランスも関係していると考えられる。

## 【体重】

### 男子



### 女子



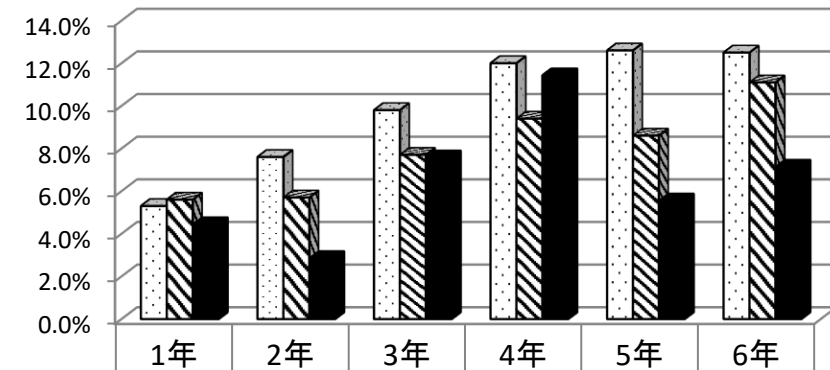
\* 男子は、2年生・4年生は全国・東京の平均と同じまたは上回っているが、1年生・3年生・5年生・6年生は、全国・東京都の平均を下回っている。特に、5年生・6年生は、小柄な児童が多いと考えられる。  
 \* 女子は、1年生・2年生・4年生・5年生は、全国・東京都の平均を上回っており、体格の良い児童が多いと考えられる。

## 【肥満傾向】

- ・軽度肥満・・・肥満度20%～30%未満
- ・中等度肥満・・・肥満度30%～50%未満
- ・高度肥満・・・肥満度50%以上

### 肥満傾向児の割合(男子)

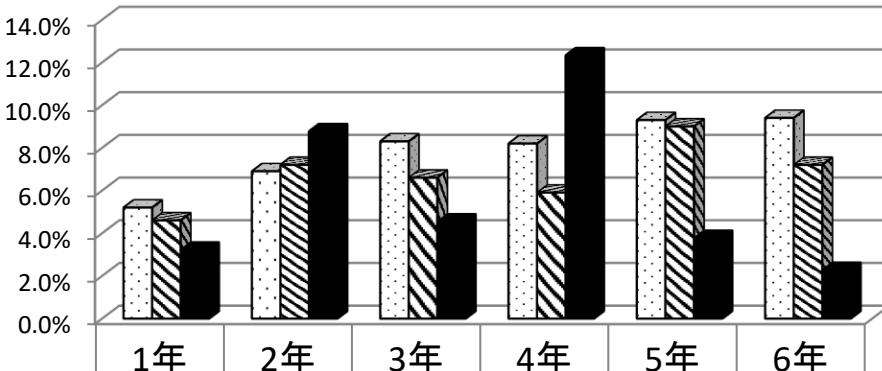
□全国 □東京都 ■清小



全国	5.3%	7.6%	9.8%	12.0%	12.6%	12.5%
東京都	5.6%	5.7%	7.7%	9.4%	8.6%	11.1%
清小	4.4%	2.9%	7.6%	11.4%	5.6%	7.1%

### 肥満傾向児の割合(女子)

□全国 □東京都 ■清小



全国	5.2%	6.9%	8.3%	8.2%	9.3%	9.4%
東京都	4.6%	7.2%	6.6%	5.9%	9.0%	7.2%
清小	3.2%	8.8%	4.5%	12.3%	3.8%	2.3%

・全国的に見て、学年が上がるにつれ増加傾向にある。

・高学年になるにつれ、塾や習い事をする児童が増えること、ゲームが普及し運動をする時間が減ることが関係していると考えられる。

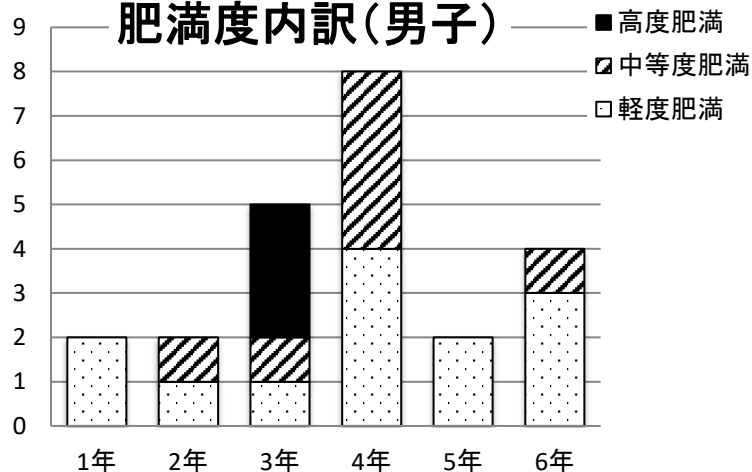
・本校の男子は、全国を下回っており、4年生以外は東京都も下回っている。

・本校の女子は、2年生・4年生が全国・東京都を上回っている。

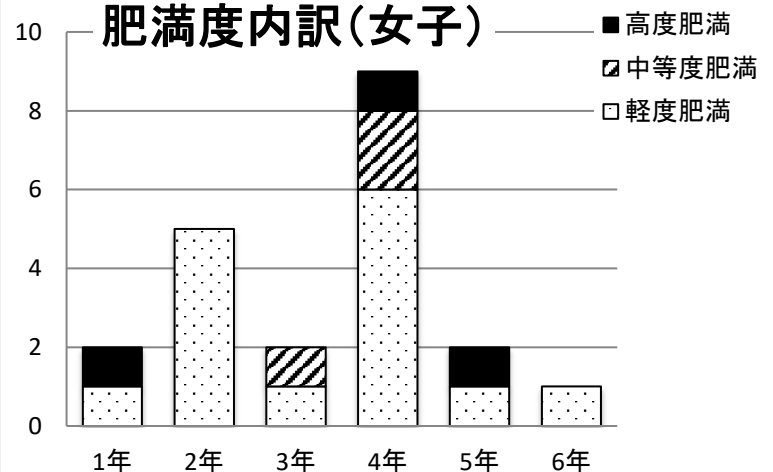
・東京都の肥満傾向の割合が高い年齢は、男子は13歳、女子は10歳となっている。

男子は中学校に入り、運動する機会が減った生徒や、生活習慣が乱れた生徒が増えるため、女子は、思春期に入り、体つきが丸くなり、脂肪がつくためと考えられる。

### 肥満度内訳(男子)



### 肥満度内訳(女子)

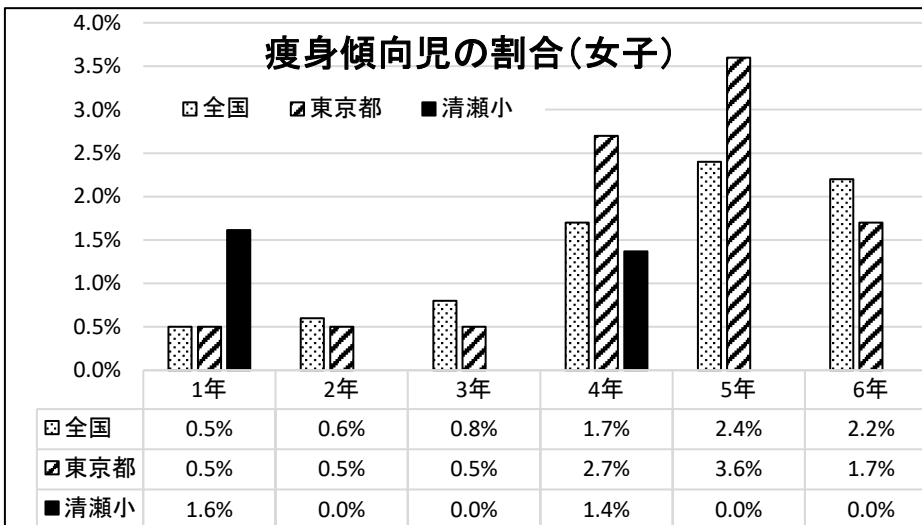
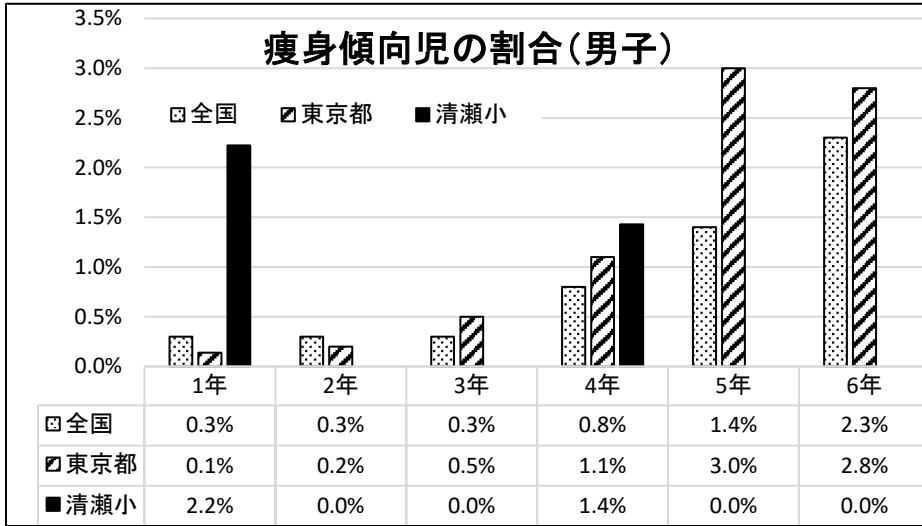


- ・1年生・5年生男子、2年生・6年生女子では中等度以上の肥満の児童がみられなかった。
- ・肥満傾向児の割合が一番高かったのは、男子・女子共に4年生だった。
- ・また、男子の方が女子より肥満傾向が高いが、本校でもその傾向がみられた。

## 【痩身傾向】

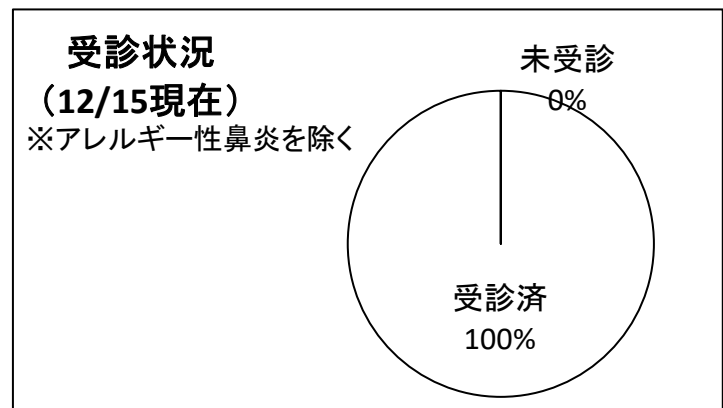
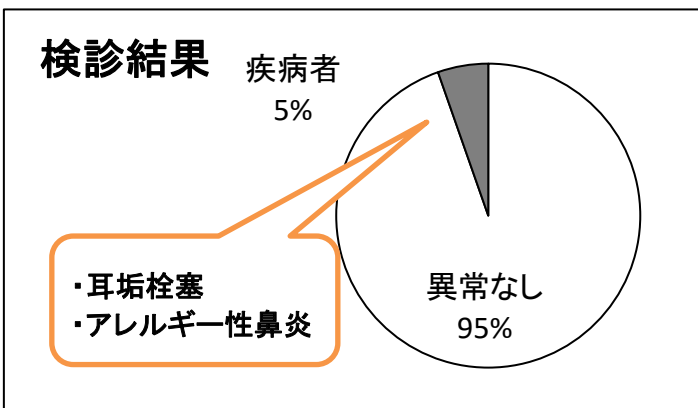
\* 肥満度-20%以上

※痩身...やせた体

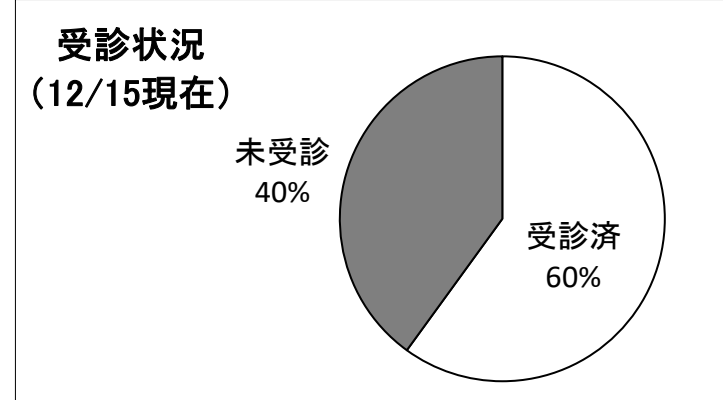
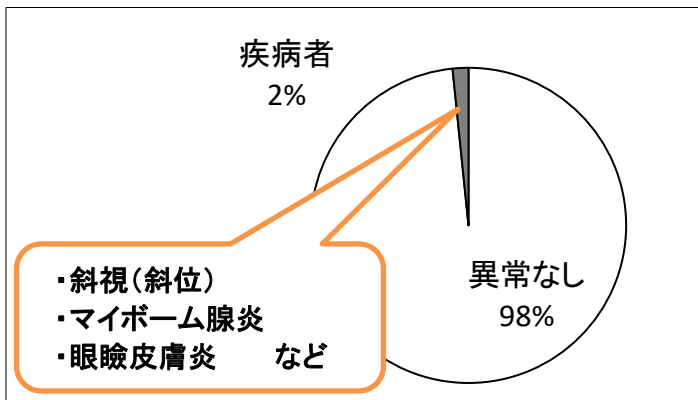


- ・男子・女子共に1年生・4年生に痩身傾向児童の割合が、全国・東京都と比べて高い。
- ・東京都では、痩身傾向児の割合が最も高いのは、男子が15歳、女子が12歳となっている。

## 【耳鼻科検診】 受診率100%

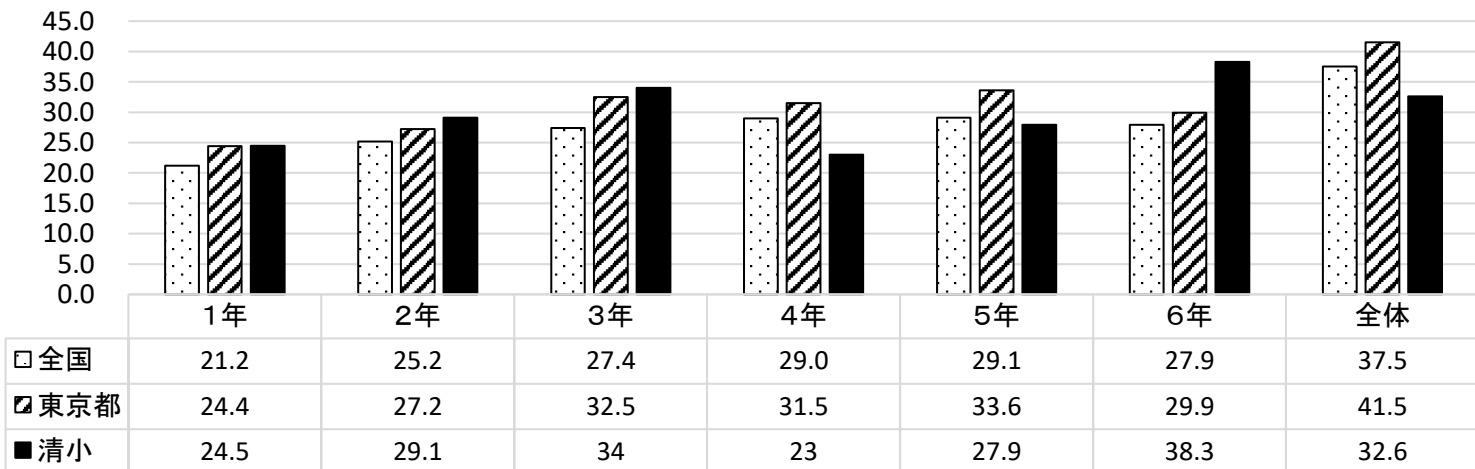


## 【眼科検診】 受診率60%



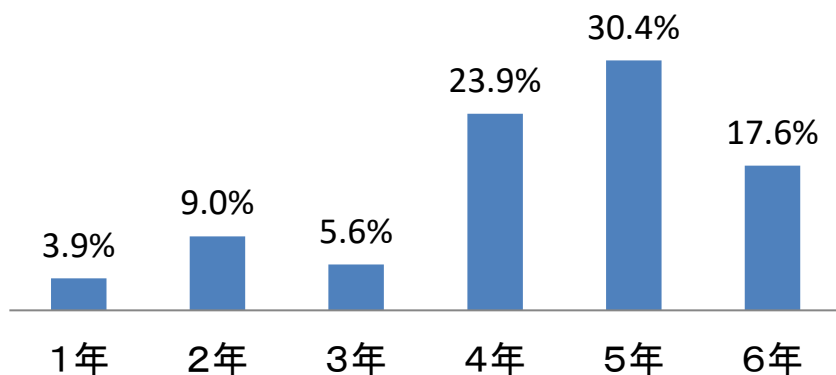
## 【視力検査】 1.0以下（裸眼視力）

### 視力1.0未満（裸眼）の人の割合

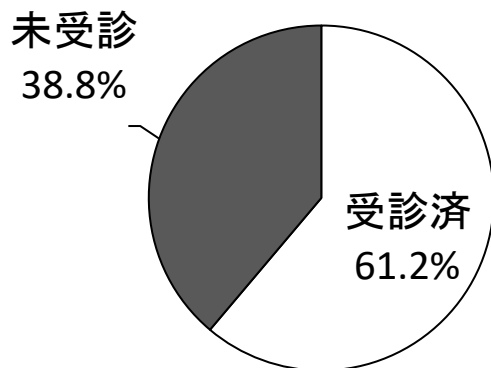


- ・全国的に、学年が上がるにつれて裸眼視力1.0未満の人の割合が増える傾向にある。
- ・本校においては、4年生で1.0未満の人の割合が急激に低くなっている。  
眼鏡着用者が、4年生になって増えていることから、このような結果になっていると思われる。
- ・東京都の学校保健統計書によると、全国値と比較すると、東京都は6歳から13歳すべての年齢で裸眼視力1.0未満の人の割合が高くなっている。
- ・また、全ての学年において、女子の方が男子よりも裸眼視力1.0未満の割合が高くなっているとのことだが、本校においては、3年生・4年生・6年生がそのような結果となった。

### メガネ着用者



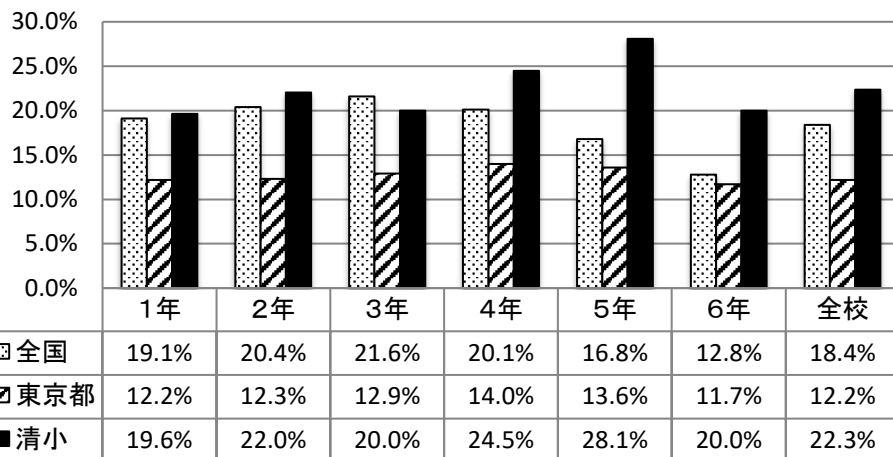
### 受診状況（12/15現在）



- ・例年、中・高学年児童が急に見えにくさを感じ、健康診断の視力検査で視力低下に気付き受診する人が多い。
- ・受診状況については、視力がB判定（0.7以上1.0未満）の児童に未受診が多い。  
B判定だと眼科受診しても、経過観察となることが多い為、未受診が多いと考えられる。  
しかし、視力低下の原因が弱視などの可能性もあるため、B判定でも受診を勧める。

## 【歯科】

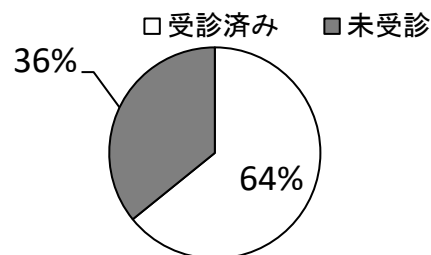
### むし歯のある児童の割合



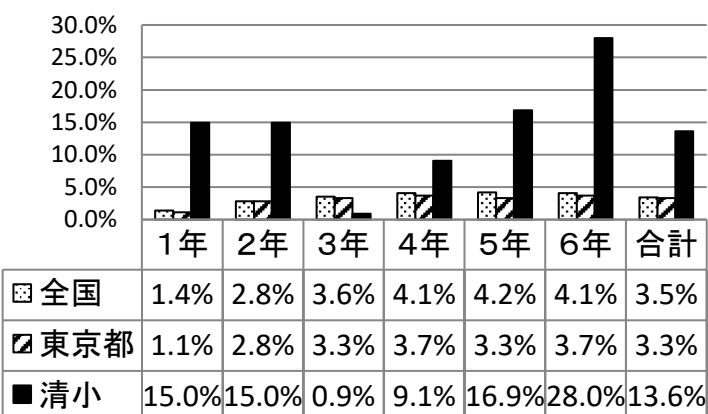
- ・むし歯のある児童数は経年的に減少傾向が続いている。
- ・本校は、3年生以外は全国・東京都のむし歯のある児童の割合を上回っている。
- ・多くのむし歯を保有している児童も数名いた。

- ・受診率は、64%と昨年度よりも上がった。(昨年度44%)  
個人面談でむし歯のある児童の保護者に対して、担任から受診を促した。
- ・次年度の健康診断まで放置し、むし歯が進行したり、他の箇所がむし歯になったりした例もあった。

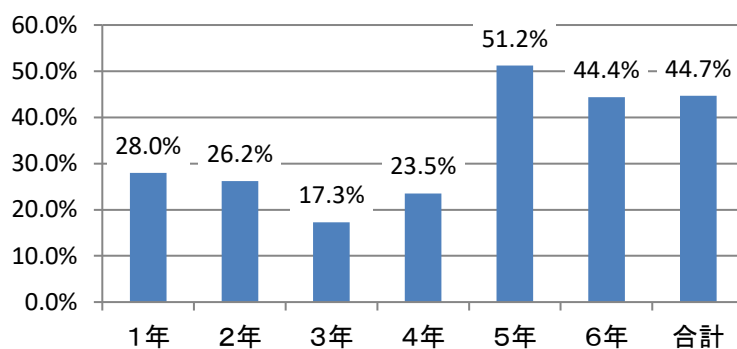
### むし歯治療率(12/15現在)



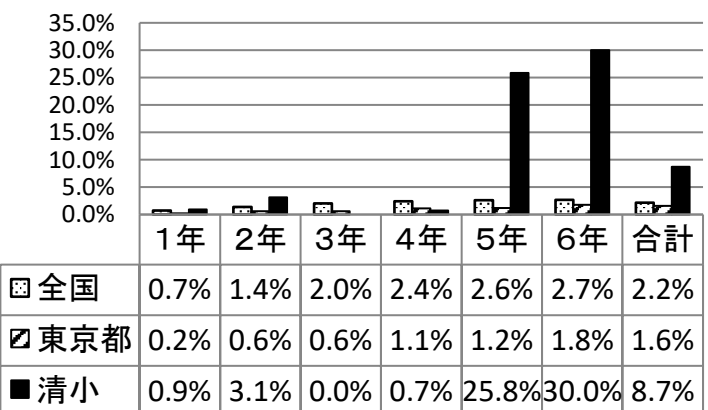
### 歯垢(相当付着)



### 歯垢が付着している児童の割合

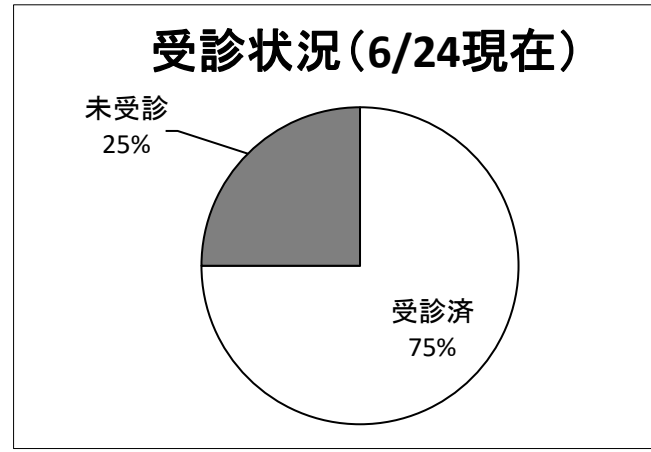
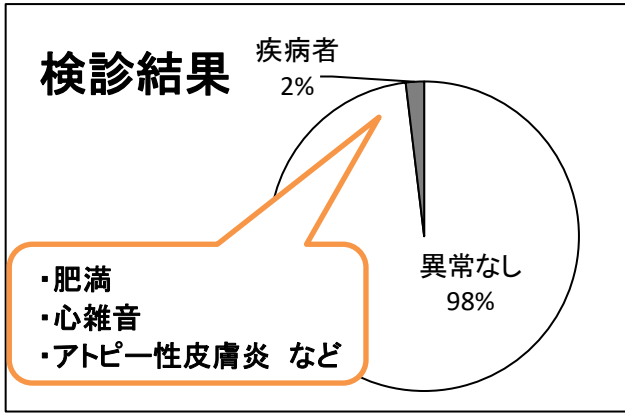


### 歯肉炎



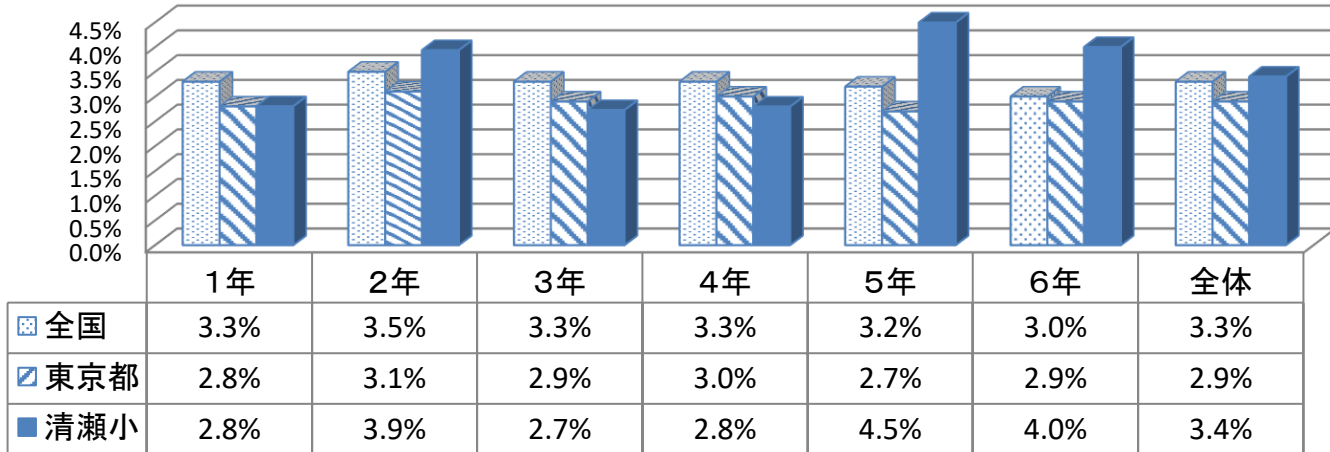
- ・歯垢が相当付着している児童は、全国においてはその割合が増加傾向になっている。
- ・本校では、歯垢が非常に付着している人の割合が3年生・5年生・6年生で多い。また、若干付着している児童が非常に多い。
- ・1年生～4年生が5年生・6年生と比べて歯垢が付着している人が少ないのは、保護者の仕上げ磨きが関係していると考える。
- ・歯垢付着がむし歯や歯肉炎へつながるため、歯科保健指導を行い、児童が自分で正しい方法で歯みがきをして、歯垢を取り除くことができるようにしていく。また、保護者に仕上げみがきの大切さについて啓発していきたい。

【内科】 受診率75%

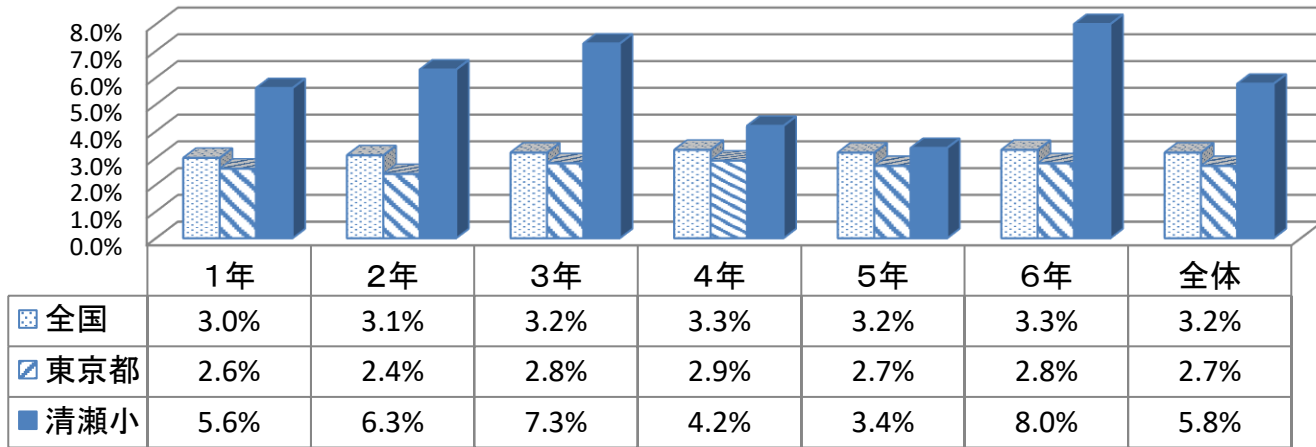


【アレルギー疾患】(保健資料及び健康診断結果から)

### ぜんそくのある児童



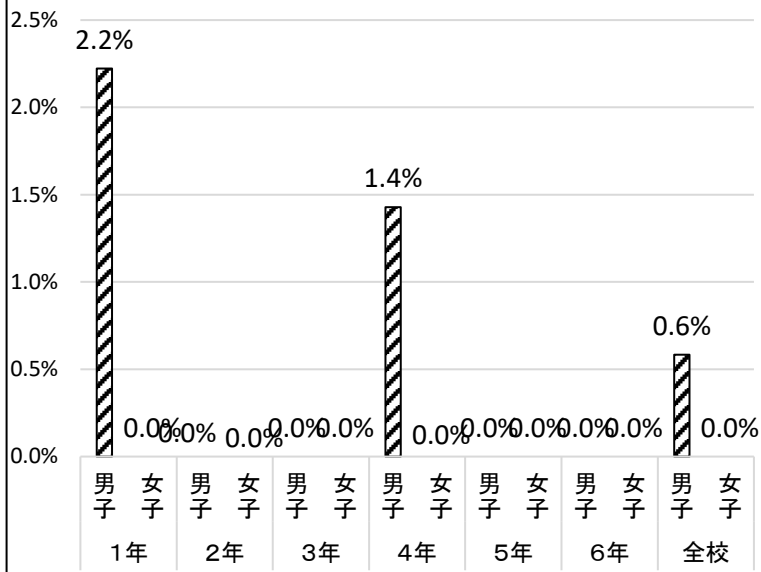
### アトピー性皮膚炎のある児童



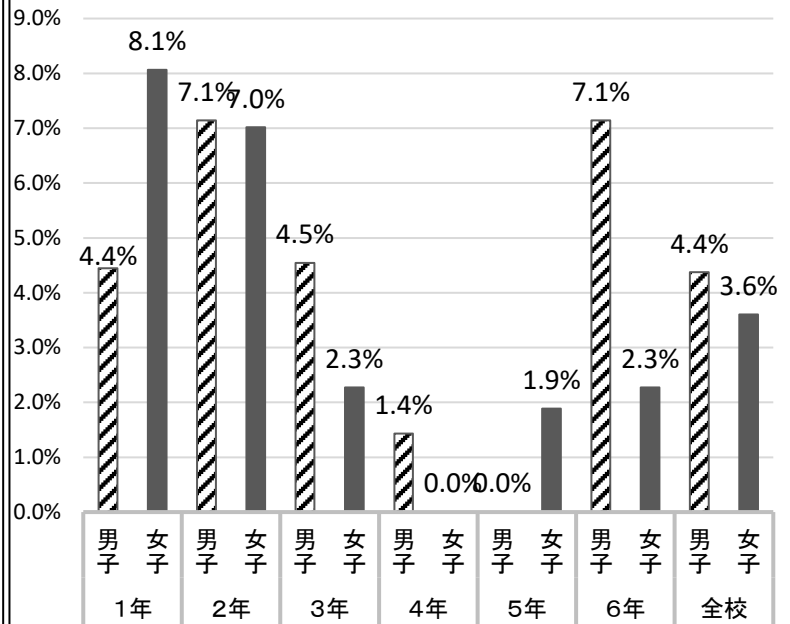
- ・ぜんそく及びアトピー性皮膚炎の児童が多い。
- ・ぜんそくは2年生・5年生・6年生が多く、アトピー性皮膚炎は4年生・5年生以外の学年で非常に多くなっている。
- ・東京都の学校保健統計書によると、ぜんそくの者の割合が最も高い年齢は7歳。アトピー性皮膚炎の者の割合が最も高い年齢は14歳。



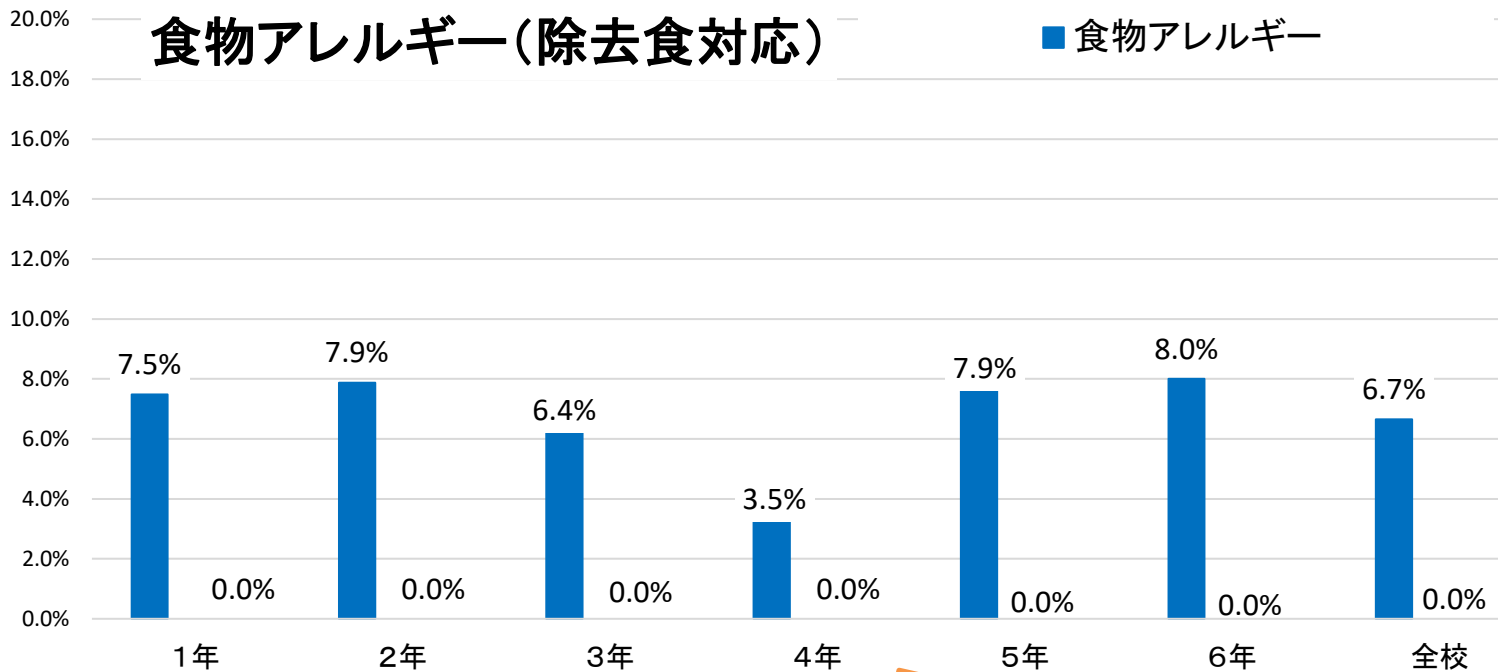
## アレルギー性結膜炎



## アレルギー性鼻炎



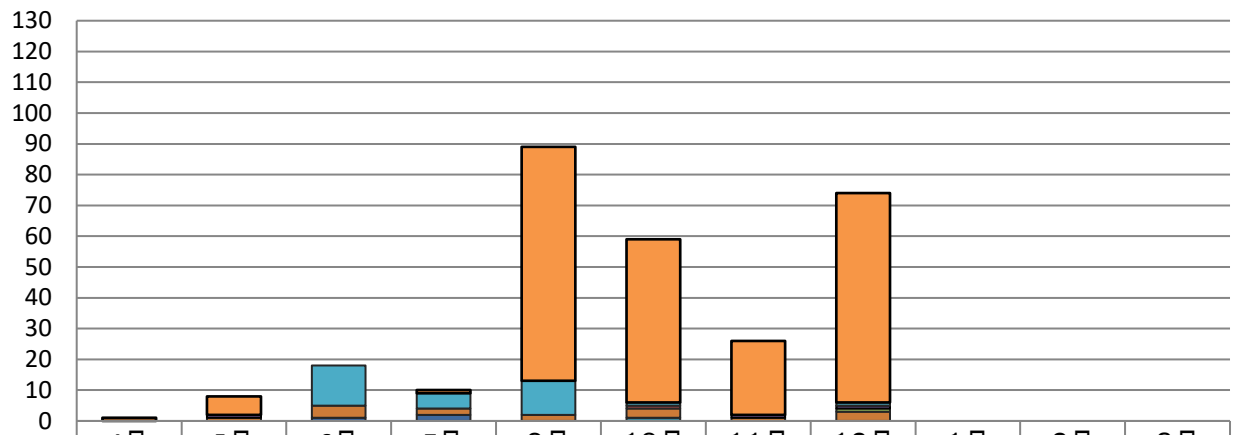
## 食物アレルギー(除去食対応)



- ・食物アレルギーがあり、給食対応をしている児童は全校の6.7%。
- ・エピペンを持参している児童は9名いる。
- ・エピペンを持参している児童のランドセルのロッカーには、すぐに分かるよう印をつけている。
- ・清瀬市内でも年々増加傾向であり、アレルギー症状を発症する事例が比較的多く、重症化しやすいピーナッツ・キウイ・そばは給食で使用しないこととなっている。
- ・血液検査で反応が出ていても、食べて症状が出ない場合もある。反対に、病院で除去の必要がないと言われたが、食べると毎回症状が出たり、血液検査での数値は出ないが、症状が出たりする人もいる。
- ・突然学校で発症する事例もあり、毎年シミュレーション研修をするなど学校全体で万が一に備えている。



# 出席停止 (R5年度)



	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■ インフルエンザ	1	6	0	1	76	53	24	68	0	0	0
■ 新型コロナウイルス感染症	0	0	13	5	11	1	0	1	0	0	0
■ 感染性胃腸炎(疑い含む)	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0
■ マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
■ 手足口病	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
■ 伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■ 溶連菌感染症	0	1	4	2	2	3	1	3	0	0	0
■ 流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
■ 咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■ 水痘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■ 流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■ ヘルパンギーナ	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0

- \* 新型コロナウイルス感染症が収束してきたと思った矢先、今まで冬に流行していたインフルエンザが、9月に流行した。その後、10月、11月と減少したが、12月に再び流行した。
- \* 1か月ほど前にインフルエンザに感染したが再度感染している児童も複数名いる。
- \* 次の日には熱は下がって学校に登校したが、再び熱が上がり、病院で検査をしたらインフルエンザだった。
- \* 病院での検査で、インフルエンザ陰性となったが、熱が下がらないため再度受診したらインフルエンザ陽性だった。